

ふれあい情報

2022 年 1 月 31 日 (月)

第 339 号

■発行 日本退職者連合

■発行人 野田 那智子

■連絡先 〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

<TEL> 03-5295-0507

<FAX> 03-5295-0541

<e-mail> ntr@sv.rengo-net.or.jp

第 5 回 (拡大) 次世代継承委員会

「井手英策さんと未来を語る会」を開催



コメントする井手先生

1 月 26 日(水)、退職者連合は第 5 回次世代継承委員会を開催しました。この委員会では、退連創立 30 周年を記念し、「若者が未来に希望を抱けるような日本社会のビジョン」について中間報告をまとめています。この日の委員会では、慶応大学の井手英策先生をお招きし、中間報告に対するコメントをいただくとともに意見交換を行いました。また、今回は拡大委員会とし、Web を併用しつつ幹事の方にもご参加いただきました。井手先生のコメントを中心に、当日の様子をお伝えします。

報告書のタイトル 「次の世代に継承すべき社会」をどう読むか

冒頭、井手さんからは総論的に、次のようなコメントがありました。

報告案については、熟読に熟読を重ねて、暗記の一步手前くらいまで読み込んできました(笑)。その上で感じたことを率直にコメントをさせていただこうと思います。

まず、この「次の世代に継承すべき社会」というタイトルを、僕はこう読みました。それは、「あるべき社会」について単に「語る」のではなく、それを実現するところまでが皆さんの責任なのだ。しかし、読みようではあるべき社会の「理念」を継承する、と考えておられるようにも思います。どっちなのでしょう。

「あるべき社会を実現するところまでが皆さんの責任だ」、と私は読みました

井手英策先生

この両者には、天と地ほどの違いがあります。僕は皆さんにあえていいいますが、このみつともない社会を作った責任をきちんと引き取っていただきたい、と。

「こんな社会が理想だよ」と言って自分たちの好き嫌いを次の世代に押し付けるのではなく、正しいと思うところを実践し、実現するところまで引き取ってこそ、この「次の世代に継承すべき社会」だと僕は思います。

丸山眞男『自己内対話』から考える

丸山眞男は『自己内対話』という本の中で「コーヒーと紅茶の優劣をつけることには何の意味もない」と言っています。しかし、インテリ、左派やリベラルと言われる人たちは、もっともらしい理屈をつけて、自分の好き嫌いを他人に押し付



正面スクリーンはWebで参加の皆さん

けようとする。それではないと丸山は言っています。要するに、私はこれが好き、ということを経済と書き連ねてもそれが嫌いな人にはまったく届かない。報告では、「新自由主義」という言葉が悪の権化のように書かれています。

僕は新自由主義は間違っていると思います。が、なぜ国民がそれを選ぶかを考えないと本当の意味で世の中は変えていけない。

安倍政権の平均予算は 99 兆円で、これは民主党政権の時と変わりません。不十分とはいえ、最賃引き上げ、幼保無償化もやっています。これは新自由主義なのでしょうか。(裏面に続く)

井手さんからはさらに多岐にわたるご指摘が

井手さんからは、さらに『生き方を自由に選択できる』という表現は同語反復になっているのではないかと「原発をめぐる記述があまり」「自由権と生存権をさらに一歩進めて幸福追求権まで踏み込んだ方がよいのではないかと」「共有する世代』の中に子どもが登場しないのは不十分」などのご指摘がありました。

退職者がどう担うのか、は悩みどころ・・・

森嶋委員長

これを受け、参加者からは次のような意見が出ました。

★早川副事務局長

もともと次世代ビジョンを作るということでスタートした委員会。新自由主義については、ダボス会議などで資本主義再定義の議論は出ているものの、大きな流れは続いているのではな

いか。原発については、連合で確認されている内容だが、さらに検討が必要なのはその通りだと考える。

★柴山幹事

理念を書くにしても、「僕たちはできなかったけど君たち頼むね」というような「預け方式」にならないような表現が必要だと思う。

★森嶋委員長



「高齢者の使命」というところは委員長を受けるにあたって自分も悩んだところ。連合傘下の組織として、あるべき社会に向けて退職者がそれをどう担うのか、またどう表現するの

かは悩みどころだと思う。

「不条理な格差」をこそ問題にすべき

井手さん

これに対し、井手さんからは「引き継ぐものは理念であるとして、皆さんが傍観者ではなくきちんとかわっていくということを書けばいいと思う」「新自由主

エイジレス・ライフ

「実践事例＆社会参加活動事例」募集！

2022 年度の「エイジレス・ライフ」(内閣府主催)の募集が始まりました。これは、『高齢者が年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ること(=エイジレス・ライフ)」の実践事例を広く募集し、全国に紹介する事業です。

過去には、食事をとれない母子家庭や外国人労働者を対象に食糧支援を行うグループ、高齢者施設で演奏や手品などを披露するグループ等が紹介されています。

皆様の周りで、このような活動をしている個人やグループをご紹介ください。自薦、他薦は問いません。退職者連合として内閣府に推薦申請します。

選考委員会の審議により「エイジレス・ライフ実践事例」に採用されると、内閣府による記者発表、ホームページでの紹介、また、退職者連合「2022 全国高齢者集会」での表章などを通し、全国へ紹介いたします。

詳細は退職者連合までお問い合わせください。

(Tel 03-5295-0507 担当 大内)

★退職者連合の募集締め切り
2 月 25 日 (金)

義が持続していくかは微妙。ブルームバーグが路線転換が起きたと言いつつ話題になった。新自由主義批判は大事だが、10 年持つものを出すべき」とのコメントがありました。

問題は重要で、きちんと触れるべきだという発言がありました。

その後も「福祉社会」という用語「リベラルデモクラシーの内実」「民主主義と効率の関係」「用語を易しく」など論点・議論は多岐にわたり、最後は「これを皆さんがどう広め、実現していくかに関心があります」という井手さんのコメントで会を締めくくりました。

今回の議論を踏まえ、次世代継承委員会では引き続き議論を深めます。

この、「井手英策さんと未来を語る会」の様子は YouTube でご覧いただけます。右の QR コードからアクセスしてください。

また、「中間報告」の原文は、退職者連合 HP 上で、「共同デスク> ニュース」から取得できます。

